

2023年度活動計画



全体作業の案内

2023年度の年間活動計画をお知らせします。

この数年コロナ禍で思う様な活動が出来ませんでした。まだコロナの影響は残りますが、行動制限は緩和され、人が集って行う作業もし易くなります。創立20周年と言う節目の年でもあるため例年以上に活発な活動を期待しております。

20周年の記念事業の詳細については全体作業日やホームページなどで順次お知らせする予定です。今年もボランティア作業にご協力よろしくお願いたします。

作業は土曜日開催です。

- ・全体作業を年5回行います。
- ・食事の提供はございません。(第5回除く)

お茶とおやつは用意をいたします。

・第4回全体作業日には20周年記念イベントを予定しています。

・企画の詳細決定後ホームページでご案内いたします。

・10月21日(土)の全体作業後に反省会・総会を行います。

※各回とも作業時間は9:30～11:30ごろを予定しています。集合場所は山彦荘前です。



2023年度活動計画	
4月15日(土) 第1回 春の全体作業 (杭打ち、ロープ張り、枯枝枯木除去) 弁当を持参下さい	
5月20日(土) 第2回 春の全体作業 (帰化植物除草) 富士見地区の子供たちに参加を呼びかけます。 弁当を持参下さい ※作業終了後湿原観察会を予定しています	
7月1日(土) 第3回 夏の全体作業 (帰化植物除草) 富士見地区の子供たちに参加を呼びかけます。 弁当を持参下さい ※作業終了後湿原観察会を予定しています	
9月9日(土) 第4回 秋の植生調査と全体作業 (帰化植物除草とゴミ拾い) 20周年記念行事(詳細はホームページで) 弁当を持参下さい	
10月21日(土) 第5回 秋の全体作業 (湿原整備、片づけ) 作業終了後反省会を行います。 2023年度総会(山彦荘にて) 反省会で弁当提供の予定です	

2022年度活動報告

2022年度はコロナ禍による行動制限が緩和され、例年に近い参加者があり、ほぼ予定通りに作業を行いました。



- 《4月16日》 第1回 春の全体作業
落ち葉拾い・ゴミ拾い・除伐材の移動 (参加:33人)
- 《5月21日》 第2回 春の全体作業
早稲田寮側のクリンソウ移植
湿原と林道沿いのタンポポ除去 (参加:26人)
- 《6月4日》 地元有志で湿原周辺の笹刈り (地元役員有志:参加:5人)
- 《6月18日》 地元有志で湿原周辺の笹刈り (地元役員有志:参加:5人)
- 《7月2日》 第3回 夏の全体作業
笹刈りした周辺の整備 (参加:44人)
シャスターデージー除去 (富士見町スキースポーツ少年団:39人)
- 《9月10日》 第4回 秋の全体作業
ススキ・イネ科の除去 (参加:33人)
- 《10月22日》 第5回 秋の全体作業。
湿原整備・あと片付
2022年度総会を開催しました。(参加:51人)
- 《10月25日》 除伐材の片付・チップ化作業 (富士見町・パノラマ・協会の共同作業) (地元役員有志:参加:6人)



2023年入笠ボランティア協会は創設20周年を迎えます

入笠山には沢山の山野草があります。

当協会のHPに掲載されているだけでも24種類、実際には目視で確認されているものを含めればその数倍以上です。これらの山野草は数々の災難に遭ってきました。



多くの人によって観光で開発され、レジャーでは踏みつけられ、動物による食害、帰化植物による侵害、盗難の憂き目にあった事も少なくありません。

誰かが保護しなければこの多種多様の山野草を守れないと、平成15年に立ち上がった男達が居ました。

彼らがこの入笠の湿原を守り続け、いつしか仲間



も増え続けて20年が経ちました。決して簡単な作業ではなかった、けれど続けてきた事で今も入笠には沢山の山野草が咲き誇ります。(この歴史の詳細は今年発行予定の20周年記念誌にて)

ボランティア協会に所属している方もそうでない方も、この入笠山で目にする希少な植物がこれからもそこにあり続けられる様「気の向いた時に、自分の出来る事を」という想いを皆で共有して貰えたら嬉しい限りです。



会創立20周年にあたって



入笠ボランティア協会
会長 沢崎 立雄
2023年、入笠ボランティア協会は設立から20周年を迎えます。

諸先輩方の努力と働きかけで今日の入笠の自然を楽しむことができています。入笠湿原に咲く貴重な山野草を守って残し、後世に引き継ぐための活動に終わりはありません。自然を愛する人が集い継続的な活動となるよう、これからも皆様と力を合わせていきたいと思ひます。今年も大勢の会員が入笠湿原に集まることを楽しみにしています。

入笠山を彩る花たち

第5回 スズラン

佐藤元昭

(キジカクシ科スズラン属)



入笠山は花の種類が多いことで有名であり、中でも、スズランはこの山を代表する植物である。

スズランは入笠湿原を代表する花として何度も会員証を彩ってきたが、創立20周年を迎える記念の年こそ

「スズラン」が相応しいと満を持しての再登場となった。

この植物は暑さや乾燥に弱く、中部以北の山地や、東北・北海道等の冷涼な湿地に多く自生していて、「蘭」の仲間のように思われがちだ

が、ラン科ではない。従来の形態的分類法では「ユリ科」に属していたが、遺伝子情報による新分類によって「キジカクシ科」に移籍された。

スズランの花言葉は「幸せの再来」「純粋」「純潔」等であり、5月1日の『誕生花』でもあるとのこと。また、この花の香りはバラ・ジャスミンに並んで、三大芳香花と称され、多くの香水や香料が作られている。

入笠山では二種類のスズランを見ることができる。その一つが、ゴンドラを降りたところに植えられている、ヨーロッパ原産である大型の「ドイツスズラン」であり、もう一方は湿原に自生している日本原産でやや小型の「スズラン」である。ドイツスズランは、花茎が葉と同じ高さか上に出るのに対し、日本在来種のスズランの花茎はやや低く、清楚にそして香しく葉の影で咲く。このことから、古来理想の日本女性をイメージする『君影草』と呼んだとのこと。

スズランは、外見は清楚で愛らしく芳香を放ち、皆に愛される植物であるが、意外にも、毒草として有名なトリカブトに勝るとも劣らぬ強烈な『毒』を全身に持っている。春先に山菜の「ギョウジャニンニク」と

間違えて食べてしまい、病院のお世話になる事故が時々発生すること。

有名な話として、高熱で入院している子供が、喉の湯きから夜中に目を覚まし、ベッド下で仮眠している母親に水を頼んだが、介護に疲れ果てた母親は起きてくれない。仕方ないので、枕元のコップに生けてあったスズランの花束を抜き取ってその水を飲んでしまった。翌朝目を覚ました母親が見たのは、冷たくなった我が子と空のコップとスズランの花束であったとの悲話がある。毒成分は、スズランの学名である「Convallaria」に因んだ「コンバラトキシン」という水溶性の強心配糖体である。

可愛いからと言って不用意に花や葉をちぎったり、根を掘り取ったりするとトンデモない事になりかねない。

綺麗な薔薇には棘があり、可愛い鈴蘭には毒が有るのである。

2022年度ボランティア協会役員

2023年度の役員会で一部役員が改選されました。

会長	沢崎 立雄
副会長	梅田 克己(新任) 鈴木 幸男(新任) 平賀 美津江
事務局長	上原 純
事務局員	大久保 市子 大河内 朝水(新任)
世話人	伊藤エミ子 大河内敬言 大園 高明 片岡 公夫 片岡久美子 佐藤 元昭 鈴木 洋子 内藤 悦子 渚 成子 西村 達男
顧問	伊藤 高明(新任) 小林 安寛 仲田 茂理 渚 和夫(新任)
会計監査	五味 紘一

(50音順)

※長年副会長をされていた渚和夫さんは退任され顧問に、事務局をされていた伊藤高明さんも顧問として、引きつづき会の運営に携わっていただきます。